

“ふじのくに”士民協働事業レビュー結果

(文化・観光部)

事業番号	14	事業名	ふじのくに海外誘客推進事業費
------	----	-----	----------------

1 基本情報

実施日/班名	9月8日 第1班	時間	11:20~12:21
担当課名	観光振興課	事業費	84,900千円

2 レビューの結果 施策を推進する効果の程度

結果	一定の効果がある	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	1
			一定の効果がある	24
			あまり効果がない	9

3 県民評価者の意見

(1)見直し・改善策

目的指標	<ul style="list-style-type: none"> 富士山世界遺産を更に広め、東京オリンピック開催の際には静岡の富士山に海外の方々に訪れていただけることを目標にしてはどうか。 今後の人口減少社会を考えると、海外の方々の力は間違いなく必要になる。観光はその入口として重要と考えられ、この事業の価値は高いと考える。
対象範囲	<ul style="list-style-type: none"> 国外については国内と違い社会情勢に大きく左右されるため、ターゲットの国を随時見直すべき。 来たくない人の国にお金を落とす必要(効果)はない。 集客方法を考え直した方がいいと思う。中国、韓国、台湾は観光客が多いので、少ない国へのアピールをもっと多くした方が客が増えるのではないかな。 観光業者に頼るより、県としてもっと活発に活動した方がいい。 何のために外国人に来てもらうのかを考え、本当に中国、韓国、台湾だけでいいのか?観光収入のアップが目的なら、どの国の人がお金を落としてくれるのか。富士山世界遺産登録で3か国以外が見込めないのか。 受け入れで問題が生じにくいアメリカやヨーロッパ等に対する誘致が不十分。静岡空港だけに拘ってはいけない。静岡空港から離着陸する国以外にもより重点を置くべき。 一点集中型誘客(現在の主要3か国)から、多方面型誘客への考慮を。 国内のみではなく、近隣国のハブ空港からトランジットで静岡空港に来ていただくルートもあるのでは。東南アジア以外の国からの観光客誘客ルートとして検討できる。 県と民間の役割を明確にすべき。県主体:文化・教育交流、地域の魅力掘り起し助成、海外各国の生活情報(食べ物、飲み物、習慣)の周知。民間:観光情報発信、受け入れ体制 民間事業者が出来ることは除外し、県でしか出来ないことを集中してやるべき。 民間では出来ない教育レベルでの学校交流は県でなければできない。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 受け入れ体制(施設その他)への支援、サービスの向上への指導をすべき。 県民一人ひとりにも、外国人受け入れに対してのおもてなしの心得を広める活動も必要。 静岡空港と他県空港との協力で観光ルートを作る。例として、台湾から冬のスキーに北海道、経由温暖な静岡で富士山周辺観光をするなど。 第2インバウンドの促進に力を入れるべき。 静岡の魅力発信も大事だが、受け入れ先の体制づくりへの係わりが見えてこない。計画を立て実施すべき。

事業内容

- ・国際文化交流促進への積極的関与を。
- ・将来来日する層の開拓、需要創造の対策をどのようにしているか。教育旅行の招聘だけでいいのか。
- ・国の計画とどのようにリンクさせていくのか。
- ・市場調査結果、分析に基づいた誘客活動が行われている様子が見えない。目的達成に必要な調査、分析が必要。
- ・世界文化遺産「富士山」をテーマにした、世界の人たちが参加できるイベントの実施が必要（例：富士山フォトコンテスト）。
- ・観光客を受け入れる民間観光事業者の意識と体制をどうするのか、県がすべきことがあるのか分からないが、検討することはあるのではないか。
- ・富士山＝静岡をもっとアピールすべき。
- ・県がやるべき事業なのか。民間に任せればいい内容。やるべきこととして、マナー問題やボランティアの活用が必要。
- ・宿泊施設業者には受け入れ意識を、外国人には静岡県の魅力（他県との違い）を啓蒙すべき。
- ・県内、海外の現場の情報を掴み切れていないのでは。例えば、アジア各国のごく一般の方に「静岡県を知っていますか」「どこにあるか分かりますか」との問いで、正確に答えた方はいなかった。また、静岡空港の教育旅行の利用を力説していたが、当空港のキャパシティや飛行機の大きさ、到着時間の限定などで利用していない学校がいくつもある。
- ・海外誘客活動への支援の取組をやっているが、受け入れ宿泊施設が不安。来客の増減はあるが、施設の充実に力を入れるようにしてほしい。
- ・民間企業がビジネスチャンスとして考えているのでは。PRよりも受け入れ体制を整えるべきでは。
- ・事業 No.15「空港定期便拡充促進事業費」で受け入れ側（台湾）が補助金を出してくれた例もあり、来たい、行きたい国同士でリレーションを図れば一律的な費用負担はなくなると思う。
- ・受け入れ体制や（観光資源を）磨くことにコストをかけるべきと考える。
- ・私は通訳ボランティアのための英語勉強会への補助金をいただいている。他県にはない取組のようで静岡県が国際交流に対して力を入れていることを感じる事が出来た。こうした取組を強化すると受け入れ体制が整うと思う（他の言語に対しても）。
- ・受け入れ態勢の教育の強化。
- ・訪日教育旅行の実績が向上している点に成果を感じる。団体客受入れの容量が増えるといい。
- ・富士山を見ながら乗降できる空港としてアピールするのも手段かと思う。
- ・誘客活動は必要と思うが、補助金等が多くなる心配がある。
- ・富士山を一番の売りにするのなら、内容の充実も図りつつ、キャラクターを作ってそれがもっと活かせるようなPRをしてほしい。
- ・統計データ、ヒアリングデータ等を解析（深掘した）を行い、どこにリソースを当てるのかを考えてはどうか（どの地域が伸びているのか等）。
- ・外国人の目線（要求）がどこにあるか、マーケティングが必要。
- ・外国人の受入れができる施設向上に対する対策が必要。そうしないと来県者数の増加は見込めない。
- ・他都道府県と連携しての展開も必要と考える。
- ・セールス、PRにボリュームを置いているように思うが、受け入れ体制も重要。宿泊施設だけでなく、観光施設全体で受け入れ体制を強化しなくては。
- ・富士山についても動きが遅い。
- ・将来的なことを考え、日本を理解してもらえよう、教育旅行の誘致に力を入れてもらいたい。
- ・他県との広域共同事業として、共通の人、モノ、金を使ってPRすべきと思う。
- ・ビジネス客の受入れを積極的にした方がいい。県内には世界的企業も多くあるし、最近では中小企業の海外進出も多くある。
- ・ソフト面（外国語の案内看板）の充実を図っていくべき。
- ・富士山をアピールすることは無論だが、維持のための施策もアピールが必要では。

事業内容

- ・「家康事典」に英語版がなかった。外国で日本の武士に人気があるのはヨーロッパだけだと思っているので、是非英語版も作って海外で販売・PR等してほしい。
- ・受け入れはいいが、対馬のように外国人観光客のおかげで日本人観光客が減少するようでは意味がない。
- ・これから富士山で外国人旅行者が増大するので、国に働きかけて外国人旅行者とのトラブル対策を十分に連携して行ってほしい。
- ・ごみのポイ捨て、落書き、順番を守らないなど、これらの対策が必要である。こちらの非常識が相手の常識だったりする。
- ・外国語パンフレットは、当該外国人の発想による国別のパンフレットを作成してほしい。
- ・外国人観光客を積極的に受け入れる意識の醸成とは何なのか？ 広告や誘客はいろいろあるが、受け入れる静岡県の一般人、観光業者、その他の意識改革については不十分ではないか。価値観や習慣が違う外国人旅行者に対する対応（ハード・ソフトとも）が見えない。これがないとリピーターはあり得ない。
- ・県が進める事業として教育的な旅行を重視していただきたい。教育旅行は対費用効果が出にくいかもしれませんが、経済的な効果は民間に託し、県としては国の相互理解を一般の方々に広め、国際的な問題解決の糸口になれば効果がある。
- ・海外発信とともに、案内看板や宿泊施設受け入れ体制等のインフラ整備を合わせた事業展開が必要である。
- ・静岡空港に拘らずに他空港の利用者についても積極的に静岡へ誘客することで、将来的に静岡空港の路線開設につながるはず。他地域と連携も！
- ・受け入れ体制の充実については、もっと力を入れる必要がある。
- ・国内同様に海外からもリピート客を多く呼ぶ工夫が必要。個人も含めて、友人や周辺の人たちに宣伝してもらおうツール等の提供（多言語でのフェイスブックページを用意したり、パンフレットを持ち帰ってもらう等）。アンケートの実施を幅広く行うことも必要。
- ・県民自身がSNS等を通じて海外に発信することも可能な時代。紹介を助ける素材やポータルページ（富士山等目玉単位で）を上手く連携することで効果的なアピールができるのではないか。
- ・受け入れに対する考え方をもう一度考え直して本県のセールスをしてほしい。

(2) その他の意見

- ・旅行商品というのはパックスツアーを意味するのか。個人旅行者であれば、今の静岡空港を選ぶことはない。
- ・全般的に目的達成に向けた前向きな対応になっていない。
- ・オリンピック開催に伴う受け入れ準備体制の確立（調査項目選定含む）
- ・富士山世界一の名があるうちは良、ともなうものをどう共有して計画していくか。
- ・富士山世界文化遺産の追い風はどのくらいあるのか（外国で）。殿様商売になっていないか。
- ・国外については社会情勢が大きく影響するため、難しい面がある。
- ・追い風のときに、勢いに乗るか、継続性・維持を考えるかの施策選択は、国内と国外では異なる。
- ・若い世代の外国の方々が、旅行経験として最初の国に選ばれることを望む。
- ・静岡空港が今後も必要なのかどうかについても検討していく必要がある。
- ・外国人の宿泊拒否があったと聞いた。言語の問題などクリアしなければならないことがあるが、前向きな行動をしてほしい。
- ・静岡県民のためではなく、無駄に作ってしまった静岡空港のためにしているように思えて不思議な気分。
- ・県の役割がよく分からない。でも外国人観光客を呼び寄せたい気持ちは分かる。ただ、コストがかかり過ぎているのかよく分からない。外国の方が静岡を選ぶ理由というものをよく理解した上での市場決定なのか、少し甘い気がする。行政が介入する理由は県内の情報発信、外国への情報発信は分かるが、果たしてコスト的にこんなにも必要なのかは分からない。でも民間では出来ないことであるということは分かった。
- ・現状を維持する上では、これまでの施策の継続である当該事業の継続、拡大が必要な気もするが、一方で今の実績が現行の施策の成果だと言い切る材料も見出せない。

- ・外国人の受け入れ体制について、PRは必要であり受け入れたいという希望はこちら側。プラスの面ばかりをPRしてもマイナスな面（海外から見た日本）もあり、今でいうと感染症（風疹）が流行っているため、日本（特に東京や大阪など）に行く際の注意喚起がされ、旅行客も落ち込む場合も考えられるため、いつでも安全な場である、そういった場合でもすぐ対応し、県民も海外からも安全であるという認識は常に必要だと思う。
- ・知らないからいいではなく、悪いイメージや悪影響もしっかりと情報発信すべきであり、住み良い、安心できる土地にするにはどういったことが必要なのかが出てくるわけで、県民の信頼と誇りにもつながっていく。
- ・ワクチン接種率が高いなど、どれだけそういった状況に瞬時に対応できるのかということも信頼を得られるか得られないかの一つだと思うので、良い面を含め、今現在外国からどういった見方をされているのか、だからどうしたらプラスになるのか、までの広い視野で、他県・他国との差別化を図ることも大切。
- ・空港を作ってしまった以上、どのように有効利用するか考えてもらわないといけない。しかし、お金をかけすぎるのはいかがかと思う。赤字でも、税金を使ってでも確保しておかないといけない事業か、よく県民に説明してほしい。
- ・空港はどこまで手をかけていけるか考えてほしい。なくても良かったか、先を見る目があったのかを何年先に検証するのか、それまでにどれだけのお金をかけていくのか。見通しを示してほしい。
- ・この事業を推進したところで、現状維持にしかならないように思われる。
- ・世界遺産との事業展開をどのように考えているか。
- ・富士山静岡空港を活用しての受入れ。空港利用者数の増加の一環なのか、静岡県観光を海外に向けて発信することが目的か？更なる明確化を。
- ・国際情勢を考えて、東アジアに重点を置くことは控えた方がいい。
- ・もう少し国内に目を向けた方が良い気がする。